

レガシーからのサービス指向 マイグレーション

早津 俊秀
プリンシパル コンサルタント
日本BEAシステムズ
プロフェッショナルサービス本部

© 2005 BEA Systems, Inc. | 1



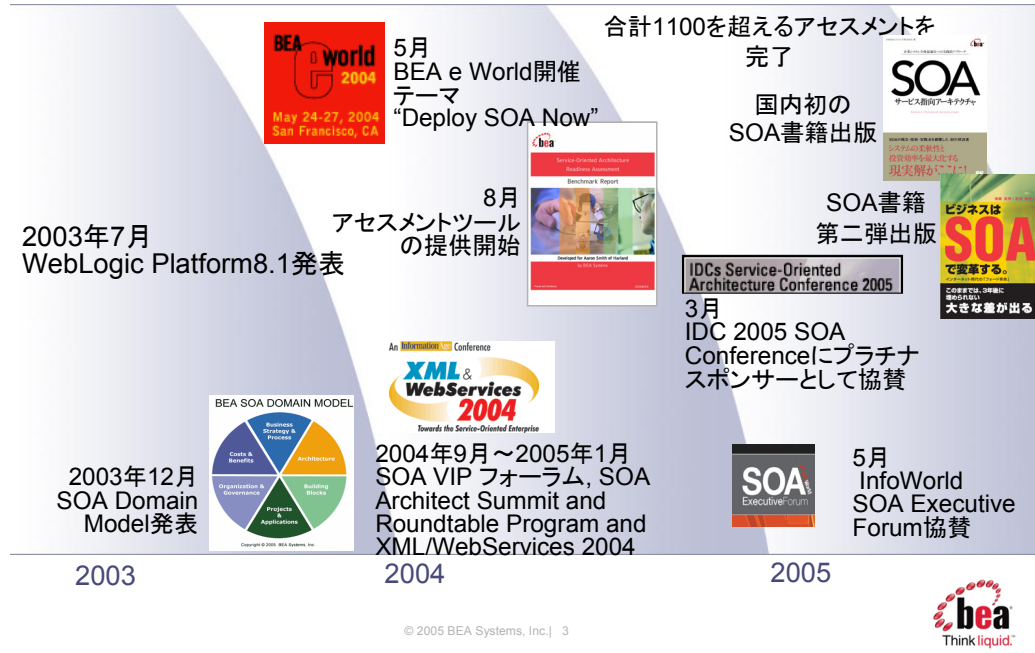
Agenda

- SOAカンパニー BEAシステムズとは
- SOAとは
- SOA適用事例
- SOA Best Practice
- SOA コンサルティングメニュー

© 2005 BEA Systems, Inc. | 2

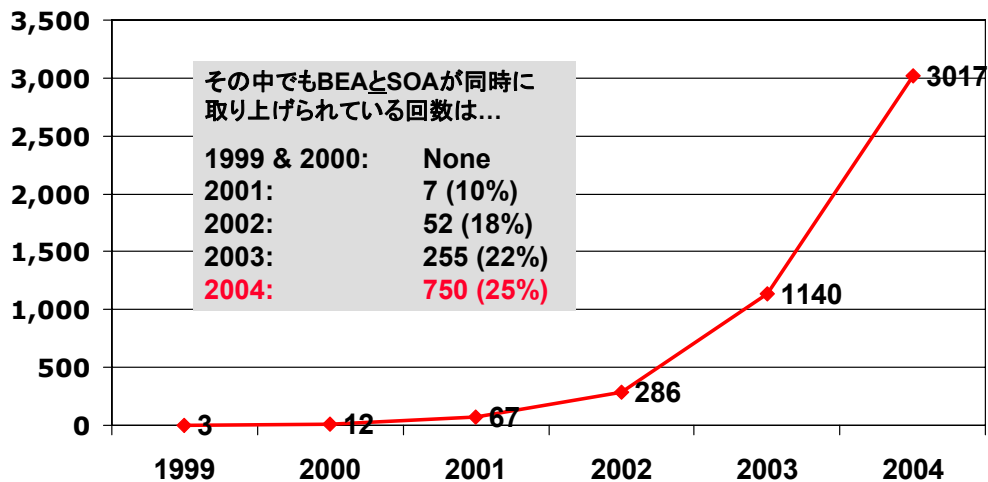


“SOAカンパニー” BEAの軌跡

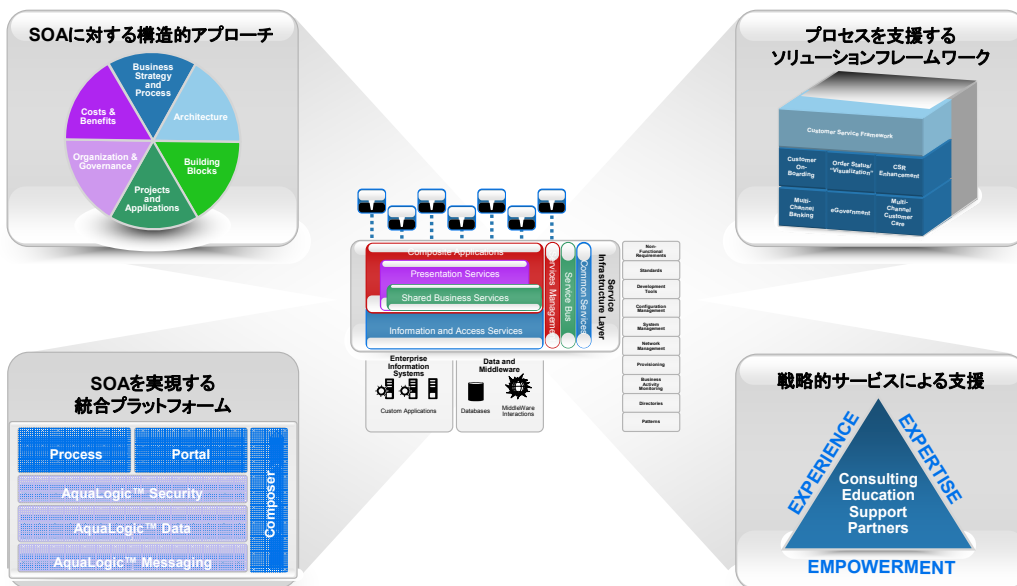


SOAとBEAの注目度は？

● メディアへの登場回数



BEAのトータルなSOA戦略



© 2005 BEA Systems, Inc. | 5



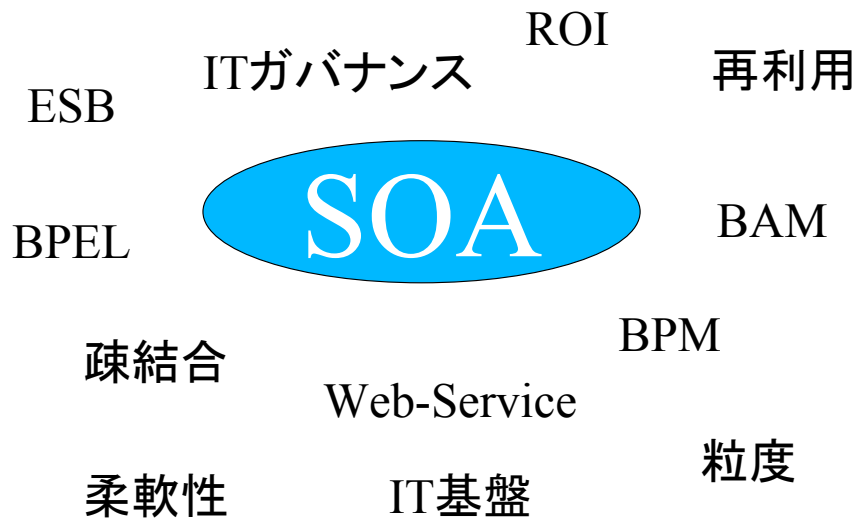
Agenda

- SOAカンパニー BEAシステムズとは
- SOAとは
- SOA適用事例
- SOA Best Practice
- SOA コンサルティングメニュー

© 2005 BEA Systems, Inc. | 6



SOAを取り巻くキーワード



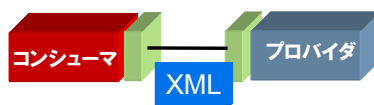
© 2005 BEA Systems, Inc. | 7



SOAの定義

企業アプリケーションにおける個々の機能を、

- ・相互運用性、
 - ・標準規格ベースでの接続、
 - ・再利用によるビジネスニーズへの即応性、
- に向けて構成するためのIT戦略である。



© 2005 BEA Systems, Inc. | 8



疎結合とは

- プログラムレベルでの理解

- ▶ 2つのプログラム関係において、呼び出す側は呼び出す対象をプログラム内にハードコーディングしないアーキテクチャ。XMLのドキュメントを介してメッセージをやり取りするため、実装技術に依存しない。

- 例、Web ServiceのWSDLを利用して通信

- システムレベルでの理解

- ▶ 他に対しての依存性が低いアーキテクチャであり、例えば、呼び出せれる側がダウンしていても呼び出す側に影響を与えないアーキテクチャ

- JMS、MOM等のメッセージング通信

- ファイル転送は疎結合か？

- ▶ ファイル転送は結合が完全に一度切れるため、疎結合というより「結合していない」と理解される。

SOAで構築する目的

柔軟性・迅速性の高いシステム

影響範囲がわかる・小さい

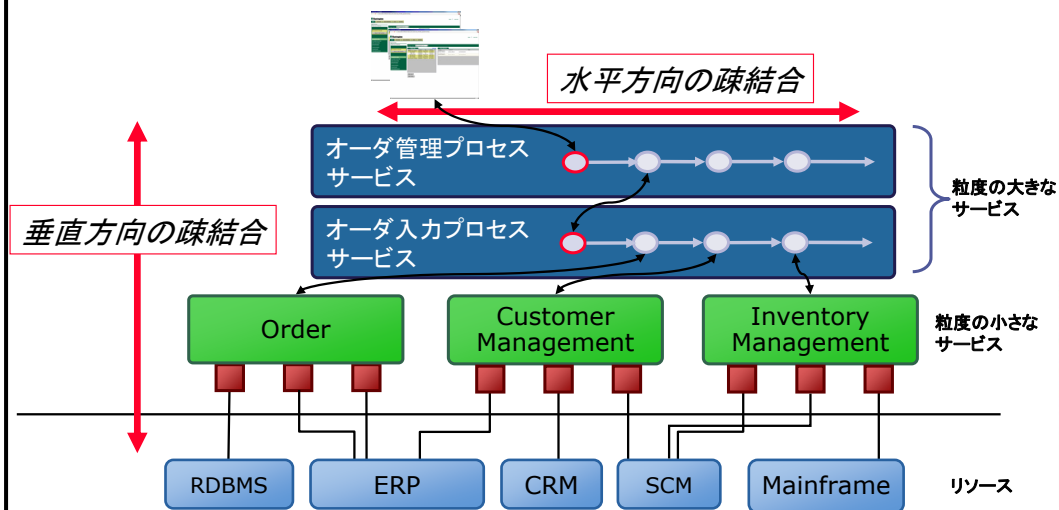
依存関係が低い・独立性が高い

疎結合アーキテクチャ

だから

SOA

SOAの目指すアーキテクチャとは？



© 2005 BEA Systems, Inc. | 11



Agenda

- SOAカンパニー BEAシステムズとは
- SOAとは
- SOA適用事例
- SOA Best Practice
- SOA コンサルティングメニュー

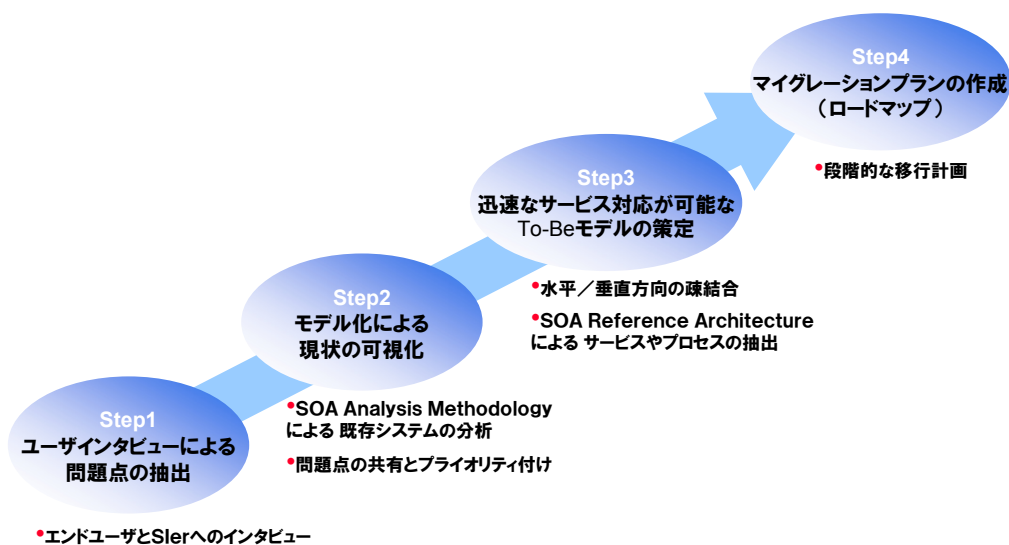
© 2005 BEA Systems, Inc. | 12



SOA適用パターン

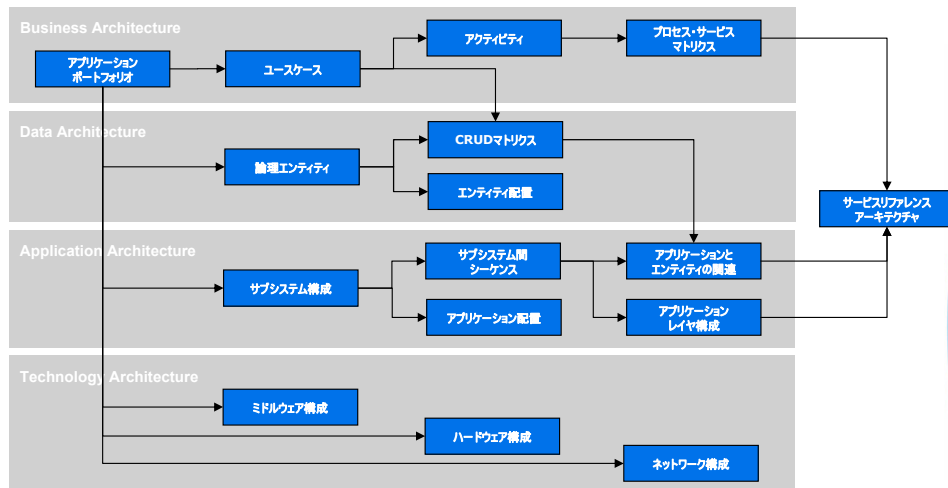
- EA実現アプローチ
 - ▶ EAの To-Be モデルアーキテクチャとして、SOAの適応を検討
 - ▶ ビジネスプロセスのSOA活用
- SOA基盤アプローチ
 - ▶ SOAベースのIT基盤を構築
 - ▶ システム連携基盤を整備
- レガシーマイグレーションアプローチ
 - ▶ 既存資産有効活用としてのSOAアプローチ
 - ホストマイグレーション
 - ERP接続型

解決へのアプローチ



全体アーキテクチャ分析

● BEA SOA Analysis Methodology



© 2005 BEA Systems, Inc. | 15



Agenda

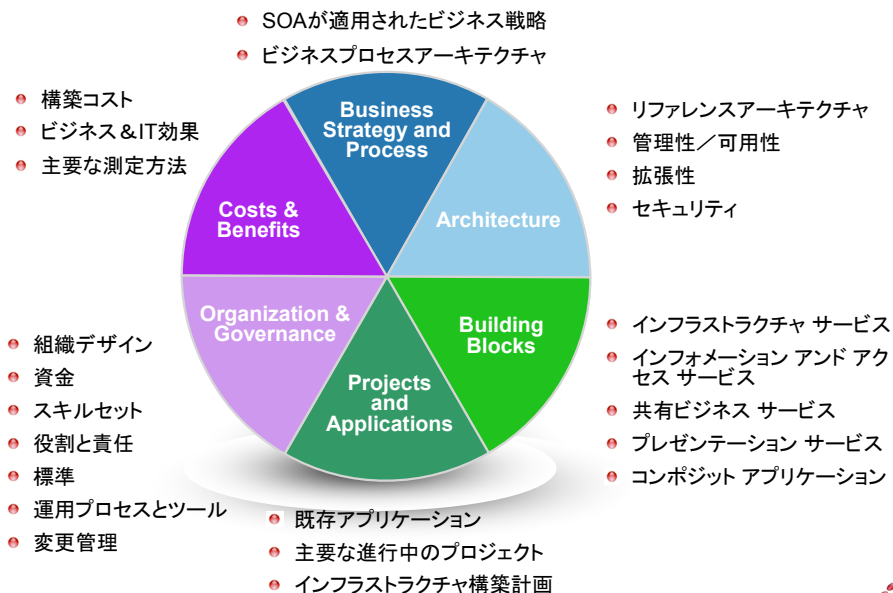
- SOAカンパニー BEAシステムズとは
- SOAとは
- SOA適用事例
- SOA Best Practice
- SOA コンサルティングメニュー

© 2005 BEA Systems, Inc. | 16



BEA SOA Domain Model

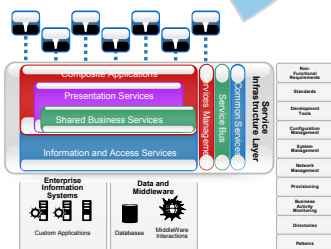
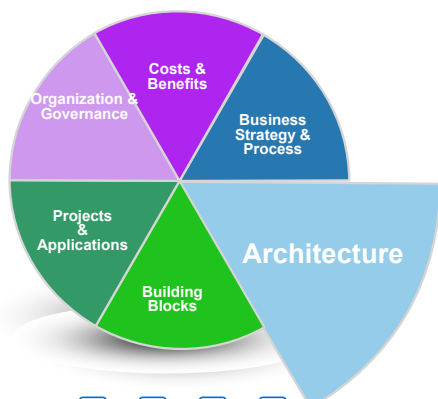
ITの俊敏性を確保する



© 2005 BEA Systems, Inc. | 17



リファレンスアーキテクチャの構築

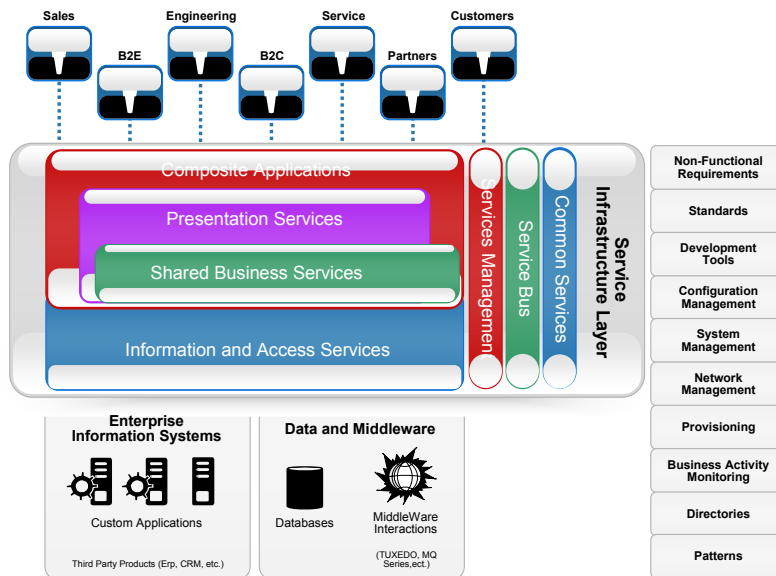


1. As-Isのシステムデザインではなく、今後行くべき方向へ向けての長期ビジョンである。
2. 成功する企業では、彼らが何を成し遂げるべきかというアーキテクチャ上のビジョンを、2、3年先まで、持っている。
3. 全体で使用する共有サービス候補を定義すると同時に、ひとつの主要プロセスから着手する。
4. アーキテクチャに関わる原理・原則ガイドライン／ポリシーを定義することに時間を割く。

© 2005 BEA Systems, Inc. | 18



リファレンスアーキテクチャ...



© 2005 BEA Systems, Inc. | 19



SOA成熟度モデル

	0	1	2	3	4	5
Business Strategy & Process						
Architecture						
Building Blocks						
Projects & Applications						
Organization & Governance						
Costs & Benefits						

As-Is
 短期
 中期
 長期

© 2005 BEA Systems, Inc. | 20



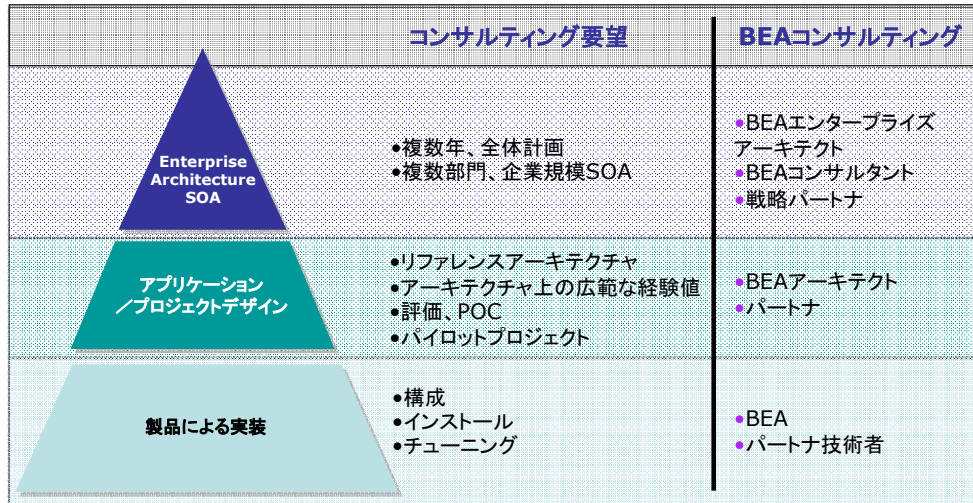
SOA成熟度モデル 成熟度レベル

レベル 5	SOA適用	- サービス組み立てアプローチが可能にする、ビジネス機会の継続的分析/実現 - 共有サービスの改良と合理化	ステージ 3: 活用
レベル 4	企業レベルのSOA適用	- 各サービス/アプリケーションの最適化と新しいビジネスプロセスへの移行 - 部門を超えた、リファレンスデータモデルや共有サービスの活用	
レベル 3	SOAレポート可能	- 多部門を支援する共有サービスチームの中央集権化 - 多年度の企業レベルSOA戦略の計画が定義/文書化 - 一部門による、部門間リファレンスデータモデル&サービスの提供(計画)	ステージ 2: 発展
レベル 2	SOAアプローチ定義	最初のサービスリソースとリファレンスデータモデル(仮)の提示	
レベル 1	SOA場当たり的適用	- 一部門向け、中央集権的ITと組織とガバナンスチームの設置 - SOA戦略調査中 - サービス指向開発のいくつかの領域を実施	ステージ 1: 調査
レベル 0	SOA未適用	- データやシステムが個別管理 - 具体的なSOAの考え方がない	

Agenda

- SOAカンパニー BEAシステムズとは
- SOAとは
- SOA適用事例
- SOA Best Practice
- SOA コンサルティングメニュー

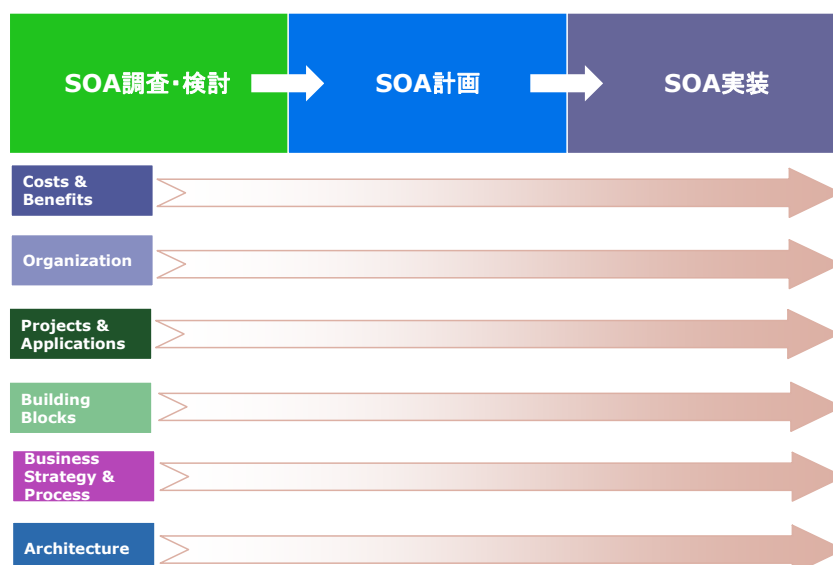
BEAコンサルティング 製品にとどまらない支援



© 2005 BEA Systems, Inc. | 23



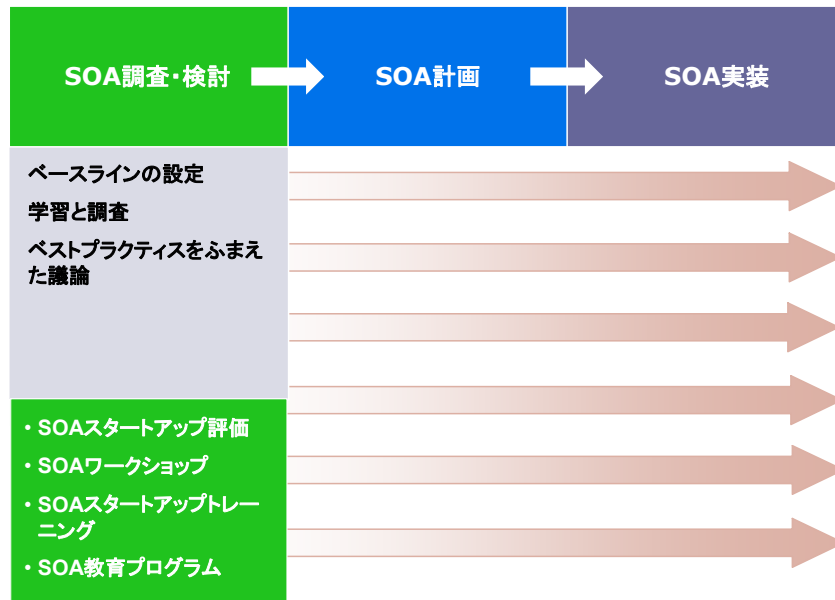
SOA導入段階のBEA支援



© 2005 BEA Systems, Inc. | 24



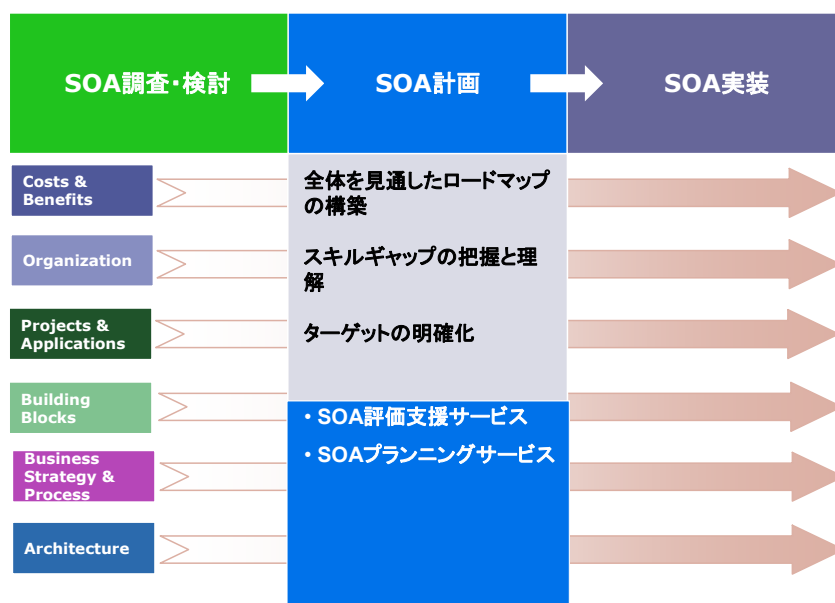
SOA調査・検討



© 2005 BEA Systems, Inc. | 25



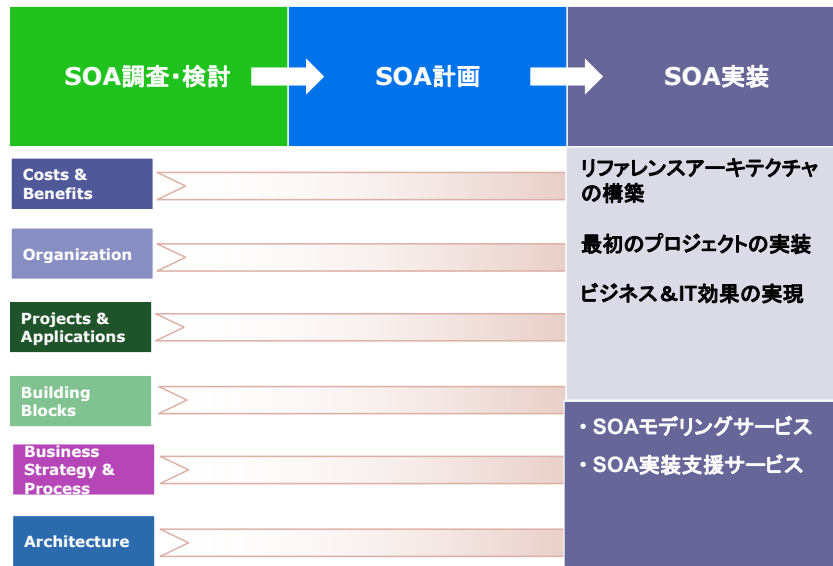
SOA計画



© 2005 BEA Systems, Inc. | 26



SOA実装



© 2005 BEA Systems, Inc. | 27



www.beasys.co.jp

12/13/2005

日本BEAシステムズ株式会社
プロフェッショナルサービス本部

© 2005 BEA Systems, Inc. | 28

